



## 2026年度 大学コンソーシアム京都SDゼミナール募集要項

2026年3月

公益財団法人 大学コンソーシアム京都

### 1. はじめに

18歳人口のさらなる減少や人生100年時代の到来、第4次産業革命の高度化による Society5.0、グローバル化の進行など、大学を取り巻く環境は激しく変化しています。大学職員には、次代を見据えた的確な舵取り能力と、環境の変化や社会のニーズを正確に分析し、それを組織における意思決定に反映させ、社会的使命である教育・研究・社会貢献を実現に導く能力が求められます。

本SDゼミナールは、若手・中堅職員を主たるターゲットとし、それぞれの大学の次代を担う人材育成を行うことを目的としています。国公立大学・短期大学から年代の近い人材が集い、数カ月間の長期間に渡って切磋琢磨し合い、強い相互作用が発生する「越境学習」の場であることが、単独大学で行うSDプログラムとの決定的な違いです。また、公開プレゼンテーションや修了時のレポートがあり、「やりっぱなし」「聞きっぱなし」にせず、しっかりと政策提言（職場への業務改善提案、新規業務提案など）としてまとめあげること、またそのためのいくつかの支援の仕組みがあることが、他の類似プログラムと異なる点です。

修了生からは、「生涯繋がる他大学職員とのネットワークができた」「高等教育の基礎知識を改めて学び直せた」「情報を収集し、まとめ、事実と論理に基づいて提言できるようになった」「高等教育全般に興味湧き、各種答申や業界紙を読むようになった」など、具体的な成果や行動の変容に関する感想が寄せられています。

わずか数ヶ月、されど数ヶ月です。自己を研鑽し、力をつけ、たった一度の大学職員人生を、より豊かにするためのステップとして、チャレンジいただければ幸いです。

### 2. SDゼミナールの特徴

SDゼミナールでは、全9回の講義受講、公開プレゼンテーションでの発表、政策提言（職場への業務改善提案、新規業務提案など）を行うレポート（以下、政策提言レポート）の執筆を行います。また、成長度を測るため、受講前と受講後にPROGテスト※を受験していただきます。本ゼミナールの主たる特徴は、以下の3点です。

- ① 一流講師陣による幅広い領域の学習が集中的にでき、知識が獲得できること
- ② 研修内外に提供される豊富な機会（毎回のグループワーク実施、修了翌年のフォローアップ研修など）によって着実に人的ネットワークができること
- ③ 公開プレゼンテーション、政策提言レポートの作成のプロセスで、アカデミック・リテラシーが培われること

#### ※PROGテストについて

学校法人河合塾と株式会社リアセックが共同開発した、ジェネリックスキルの成長を支援するアセスメントプログラムです。専攻・専門に関わらず、社会で求められる汎用的な能力・態度・志向=ジェネリックスキルを測定・育成します。

SDゼミナール受講前と受講後の定められた期間内で、ご自宅等よりWEBにて受験していただきます。なお、受験料はSDゼミナール受講料に含まれています。

また、11月下旬～12月上旬には、株式会社リアセックの担当者による解説会を予定しています。解説会は、Zoomミーティングにて実施いたします。開催日時は、受講生に希望を確認したのち、決定いたします。

### 3. 研修の到達目標

SDゼミナールは、以下の到達目標を掲げています。

#### ①【基礎知識】

大学職員として必要な基礎知識（高等教育情勢や関連する法令・制度、学生動向、大学と社会の関係等）を得る。

#### ②【人的ネットワーク】

他大学の職員と共に学び、切磋琢磨する中で、大学の枠を越えた人的ネットワークを形成する。

#### ③【自律的学習力】

職業人として自律的に学習・考察する態度を身につける。

#### ④【ロジカルシンキング】

課題を発見し、論理的に思考することができる。

#### ⑤【リサーチスキル】

情報収集・分析を行うことができる。

### 4. 実施概要

開催日：2026年5月30日（土）

2026年6月6日（土）・13日（土）・20日（土）・27日（土）

2026年7月4日（土）・11日（土）・18日（土）・25日（土）

2026年9月12日（土）・19日（土）

会場：キャンパスプラザ京都 ※一部オンライン（Zoom）

### 5. 募集人数

16名（大学コンソーシアム京都加盟校優先）

### 6. 参加条件

下記①・②のいずれかに該当する者

① SDゼミナール開始の時点で、大学職員としての職務経験が3年以上の者

② 入職前に職務経験等があり、上記①の参加条件に準ずると所属大学が判断した者

※推薦書の提出が別途必要になります。

### 7. 研修概要

※ 所属・役職は2026年3月現在

| 研修概要   |
|--|
| <b>【オリエンテーション】5月30日（土）13:00-14:30</b><br>・SDゼミナールの受講について（事務連絡）<br>・SDゼミナールの受講の心構え（修了生からのメッセージ）   |
| <b>【第1回】5月30日（土）14:50-17:30</b><br><b>アカデミック・ライティングの基礎 — 「問題意識」を具体的な「問い」に変換する方法とは？—</b><br><b>講師：坂本 尚志 氏（京都薬科大学 基礎科学系一般教育分野 准教授）</b><br><講義の目的・到達目標><br>この講義では、レポートに代表されるアカデミックな文章の書き方の基礎を、「問い」の立て方、扱い方に焦点を当てて学びます。<br>講義やグループワークによって、「問い」に基づいた一貫した議論の流れを作れるようになること、そして、業務の中でのこうした方法の応用可能性を、討論を通じて発見することを目的とします。 |

## 研 修 概 要

### 【第2回】6月6日（土）13：50-17：00

大学の制度・法令・組織 一質の高い仕事のために大学教育関連制度・法令・組織を理解する—

講師：宮林 常崇 氏（東京都立大学法人 東京都立大学教務課長（兼務 開設準備担当課長））

＜講義の目的・到達目標＞

本講義の目的は、第3回以降の講義を理解するために必要な基礎的知識・理解を身につけることです。

具体的な到達目標は次のとおりです。

- 1) 大学教育を取り巻く制度・法令・組織のうち、大学運営の中核を担う職員が身につけておくべき知識・理解を身につける。
- 2) 仕事の質を高めるために役立つフレームワークを修得し、学びで得た知識・理解や人脈を職場で活かすことができる。
- 3) 大学職員が学ぶことの意義の再確認し、今後も学び続けることができる。

### 【第3回】6月13日（土）13：50-17：00

アカデミック・リテラシーと政策提言レポート

—アカデミック・リテラシーを理解し、リサーチを開始する—

講師：村山 孝道 氏（京都文教大学 総合社会学部 実践社会学科 准教授）

＜講義の目的＞

9月の公開プレゼンテーション、10月の政策提言レポート期日はあつという間にやってきます。本講義では、これらの概要、レベル感、ゴールまでのプロセスを共有した上で、成果物を生み出すための具体的な第一歩を踏み出していただきます。SDゼミナールの特徴の一つであるアカデミック・リテラシーについて理解を深めた上で、受講者それぞれの研究テーマやリサーチクエストンについて、相互に磨き合います。

＜到達目標＞

- ・公開プレゼンテーション、政策提言レポートの概要とレベル感を説明出来る。
- ・自身の研究テーマ及びリサーチクエストンを説明出来る。
- ・アカデミック・リテラシーの意味や意義、業務との関係を説明出来る。

### 【第4回】6月20日（土）13：50-17：00

大学と高等教育政策 一高等教育政策の側から大学を見ると—

講師：松坂 浩史 氏（文化庁審議官）

＜講義の目的・到達目標＞

中央教育審議会答申として「急速な少子化が進行する中での将来社会を見据えた高等教育の在り方について」が出されたが、今後2040年までに大学入学者の減少が大幅に進むことが予想されており、大学全体の規模の縮小も視野に入ってきた。

答申に込められた大学側からは見えにくい高等教育政策の背景について考えることにより、今後、大学職員として働く中で、高等教育政策の基礎知識や背景を知るとともに、政策を「見る目」を養うことを目的とする。

### 【第5回】6月27日（土）13：50-17：00

大学と高大連携・高大接続 一初等中等教育の最終段階である高等学校教育から見る高大接続について—

講師：荒瀬 克己 氏（独立行政法人教職員支援機構 理事長）

＜講義の目的・到達目標＞

今後の高大連携・高大接続を展望するため、高等学校学習指導要領（2018年3月）、中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」（2021年1月）等を参考に、キャリア発達（社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程）を促すキャリア教育についての理解を深める。

### 【第6回】7月4日（土）13：50-17：00

大学と社会 一地域連携の意味と大学の役割—

講師：深尾 昌峰 氏（龍谷大学 政策学部 教授）

＜講義の目的・到達目標＞

人口減少時代、超高齢化社会を迎える中で、社会が求める大学の役割、地域社会に根ざす大学のあり方が問われている。これまでの大学連携や地域連携の事例をもとに、これからの大学の役割を考え、スタッフ部門の役割と求められる能力について考える。

## 研 修 概 要

**【第7回】7月11日（土）13:50-17:00**

大学教育の質保証に向けた教学マネジメント

—自校の教学マネジメントを推進していくための討議と助言—

講師：西野 毅朗 氏（京都橘大学 経営学部 経営学科 准教授、教育開発・学習支援室）

<講義の目的・到達目標>

1. 教学マネジメントに関わる基礎知識を習得する。
2. 自校の教学マネジメントの状況を、他大学と比較しつつ把握する。
3. 自校の教学マネジメントを今後推進していくための課題と解決策を立案する。

**【第8回】7月18日（土）13:50-17:00 <オンライン (Zoom) >**

大学の戦略とリーダーシップ —戦略と変革で大学と社会の未来を拓く—

講師：吉武 博通 氏（学校法人東京家政学院 理事長、筑波大学名誉教授）

<講義の目的・到達目標>

国の内外を問わず私たちを取り巻く社会はまさに激動の時代を迎えています。18歳人口の減少速度は2035年頃から一気に加速します。それまでに「強い大学」をつくっておく必要があります。これからの5年程度が大学や社会の未来を決める正念場となります。そのキーワードは「戦略」と「変革」です。そのために私たちは何をなすべきか、一緒に考えてみたいと思います。戦略とその遂行を通して変革を主導できる人材とは何か、あるべき人材観を養う契機とし得ることが到達目標です。

**【第9回】7月25日（土）13:50-17:00**

ブランディング・学生募集 —大学ブランディングの進め方—

講師：上條 憲二 氏（愛知東邦大学 経営学部 地域ビジネス学科 教授）

<講義の目的>

- ①ブランド、ブランディングの概念を理解する。
- ②ブランディングの具体的な進め方を理解する。

<到達目標>

- ③ 実際に自分たちの大学組織のブランドコンセプト(ブランドステートメント)の仮説を考えることにより、ブランディングの方向性、可能性を認識する。

**【公開プレゼンテーション】9月12日（土）13:00-18:00**

※ 受講者数によって、終了時間は異なります。

各受講者の政策提言について、公開プレゼンテーションを行います。

政策提言レポート完成前のブラッシュアップの機会とし、進捗状況を発表していただきます。

SDゼミナール修了生や関係者等が聴講する予定です。

**【公開プレゼンテーションフォロー研修】9月19日（土）13:50-17:00**

講師：本田 純一 氏（京都橘学園 たちばな大路こども園 事務室長）

<講義の目的>

公開プレゼンテーションを終えた受講生が経験しやすい“燃え尽き”の状態から立ち上がり、政策提言レポートの執筆や所属機関での課題解決に向けて、再び主体的に取り組むためのモチベーションを再構築することを目的とする。

また、個人だけでなく受講生全体を一つのチームとして捉え、修了生との交流も通じながら、行動を持続させるための視点や姿勢を育む。

<到達目標>

1. 公開プレゼンテーションの内容を自己評価・他者評価の双方から振り返り、今の自分の状況や課題を言語化して説明できる。
2. 個人としてだけでなく、受講生全体を一つのチームとして捉え、政策提言レポート執筆に向けたモチベーションを再設定できる。
3. 政策提言レポートの先に、所属機関での課題解決につながる行動のイメージを具体的に描くことができる。

**【フォローアップ研修】2027年5月（開催日未定）**

※上記、研修概要については予定であり、変更となる場合がございます。

## 8. SD ゼミナール受講にあたって

受講後、以下 3 点を所定の期日までに提出していただきます。具体的な個人の研究テーマを持って、講義や演習に臨んでください。提出期日や内容については、オリエンテーションにおいてご説明いたします。

- ① 中間報告書
- ② 公開プレゼンテーション資料
- ③ 政策提言レポート

※ 毎回講義終了後に、アンケートにお答えいただきます。

※ 研究テーマにつきましては、本研修プログラムの活用による成果をより具体的なものとするために、可能な限り、上長の合意を得て設定していただきますようご協力をお願いいたします。

## 9. 修了要件について

原則として、下記の全ての条件を満たした受講生に「オープンバッジ」を授与します。

<修了要件>

- ① 公開プレゼンテーション・公開プレゼンテーションフォロー研修を含む全 11 回の研修のうち、8 回以上の出席  
※ 欠席された場合、講義の録画データをご覧いただき、レポートにまとめていただきます。

- ② 政策提言レポートの提出

執筆要領：形式 Microsoft Word (A4 版) 横書き 40 字×30 行設定

分量 6 ページ以上 10 ページ以内 (図表・参考文献等を含む)

※ 事前に申し出があった場合に限り、10 ページ以上可

一次提出締切日：10 月 13 日 (火) ※2 週間以内にアドバイスをお送りいたします。

最終提出締切日：11 月 9 日 (月)

執筆要領等の詳細な内容については、オリエンテーションおよび受講期間中にご案内します。

政策提言レポートは、報告集としてとりまとめ、「SD ゼミナール政策提言レポート集」を発行いたします (12 月発行)。

## 10. フォローアップ研修について

SD ゼミナール受講後の翌年 (2027 年 5 月予定) に、修了生全員を対象としたフォローアップ研修を実施いたします。SD ゼミナールを受講し、その後業務にどのように活かされているのか、可視化・言語化を行い、お互いの変化や成長・達成を、皆さんと振り返ることを目的としています。日程については、決まり次第ご案内いたします。

また、修了後もフォローアップの機会を設けております (例：SD ゼミナール、SD 共同研修プログラム、ポスターセッションの発表、教まちや News のスタッフレポート執筆等)。随時お知らせいたしますので、積極的にご活用ください。

## 11. シラバスおよび教材について

受講生には、受講決定通知と同時に、シラバス (教材・参考文献リストを含む) を配布します。また、初回講義時のオリエンテーションにおいて、具体的な研修プログラムについて説明いたします。

## 1 2. 受講申込み方法について

下記の手順に沿ってお申込みください。

|                           | 機関申込  | 個人申込                                      |
|---------------------------|---|---|
| 【STEP 1】<br>お申込み          | 「受講申込書」に必要事項を記入のうえ、所属の大学等を通じてメール添付にてお申込みください。   | 「受講申込書」に必要事項を記入のうえ、メール添付にてお申込みください。       |
|                           | 注意：各大学等での取りまとめにあたっては、下記の申込締切日に間に合うよう、学内集約期日の設定をお願いいたします。  | 注意：申込みに際して、所属大学が機関申込を採用していないか、事前にご確認ください。 |
|                           | 下記の Web ページより、「受講申込書」をダウンロードのうえ、メール添付にてお申込みください。  |   |
|                           | 【2026 年度 SD ゼミナール Web ページ】<br><a href="https://www.consortium.or.jp/project/sd/administrator">https://www.consortium.or.jp/project/sd/administrator</a> |   |
|                           | 申込先：sd■consortium.or.jp（■を@に変えてお送りください。）<br>メール送信時の件名：【SD ゼミナール申込】（所属・氏名等）  |   |
| 申込締切日：2026 年 4 月 24 日（金）  |   |   |
| 【STEP 2】<br>選考            | 受講申込書に基づき、書類選考を行います。  |   |
| 【STEP 3】<br>受講可否の<br>お知らせ | 5 月中旬頃に、所属大学等を通じて本人宛にメール通知いたします。  | 5 月中旬頃に、本人宛にメール通知いたします。                   |
| 【STEP 4】<br>関係書類<br>送付    | 受講の許可通知後、下記の関係書類をお送りいたします。<br>・受講のご案内<br>・受講料の請求書<br>・シラバス  |   |
| 【STEP 5】<br>受講料の<br>お支払い  | 所定の期日までに、当財団の指定口座にお振込みいただきます。   |   |

## 1 3. 受講料について

大学コンソーシアム京都加盟大学・短期大学の方 20,000 円

上記以外の方 60,000 円

※ 一度納入された受講料は、返金等には応じられませんので、予めご了承ください。

## 1 4. お問い合わせ先

公益財団法人 大学コンソーシアム京都 教育開発事業部（SD 事業担当）

所在地：〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都

TEL：075（353）9163 FAX：075（353）9101

e-mail：sd@consortium.or.jp

以上